

災害による被害を減らす取り組みを行っています

地震に備えて、シェイクアウトを実施



防災の日（全国）である9月1日に、町立診療所事務室において災害時に町民の安全を守れるよう、「シェイクアウト」を実施しました。

シェイクアウトとは、地震の際に「まず低く、頭を守り、動かない」訓練をすることで、地震による被害を減らすためのもっとも適切な行動ということで取り組みが広がられています。地震発生時に自分自身の身を守る方法を身につける大切な機会として平常時に職員自ら訓練を行ったものです。

9月5日は剣淵町防災の日 地域防災マスターの育成！

9月5日、旭川市において北海道が主催する「北海道地域防災マスター認定研修会」が開催され、剣淵町からは緑町自治会地域安全部長、社会福祉法人北斗会（西原学園・北の杜舎・ひらなみ荘）の職員などの5名が参加しました。

研修会では、防災リーダーとしての役割、道内の自然災害状況や地域特有の気象の知識、実践的なカリキュラムである災害図上訓練（DIG）、災害時における救急訓練などの防災教育を学びました。今後は、日頃からの防災に関する心構えを身につけ、災害時には職場、地域において活動することにより、減災の行動につなげていきます。



水防学習会の開催

9月9日、剣淵小学校で4・5年生を対象に水防学習会が開催されました。この学習会は旭川開発建設部名寄河川事務所と剣淵町の共催で、北海道開発局が所有する体験装置により、子どもたちに災害時の状況を疑似体験してもらい、水防意識や地域防災力の向上を図ることを目的として開催されたものです。

当日は駐車場に降雨体験や流水体験、地下浸水体験を行う大掛かりな装置を設置し、降雨体験装置では日本で観測された過去最高の時間雨量150mmの大雨を体験しました。子どもたちは歓声をあげながらもその激しさと恐ろしさを実感しました。また、校内でも大雨災害時の行動やハザードマップについての理解を深める学習を行うなど、貴重な体験をすることができた1日となりました。

▶剣淵町洪水ハザードマップは町のHPからダウンロードできます。

